



あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

№ 19 2017.8

青森県産業技術センター 野菜研究所

<掲載記事>

- にんにく高品質安定生産技術研修会
- イモグサレセンチュウの計測
- 普及指導員研修
- 営大生病害虫演習
- 東北地域野菜夏期研究会開催
- 土づくり指導力向上研修会



第2回にんにく高品質安定生産技術研修会

7月11日、当研究所と六戸町の現地において、県関係機関、JA全農あomorい、各農協から計52名の参加を得て、今年2回目のにんにく高品質安定生産技術研修会が開催されました。平成29年産ニンニクの乾燥技術について、理解を深めていただくための指導者向けの研修会を行いました。

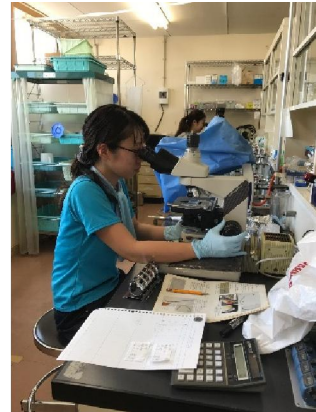
当研究所今主任研究員が、乾燥のポイントについて解説し、六戸町の現地では、スチールコンテナを利用した省力乾燥方法の利点や農家ならではの工夫の実際を勉強しました。



乾燥機のある倉庫と説明を聴く参加者

イモグサレセンチュウを計測

イモグサレセンチュウのニンニクへの侵入を調査している風景です。センチュウの侵入する時期は収穫の前のどの時期かを明らかにするため、実態顕微鏡でセンチュウの有無や数を調査しています。



新人普及指導員研修



6月下旬～7月上旬にかけて、野菜研究所において、新たに普及指導員となった方の専門技術向上研修を実施しました。

今年は5名の研修生が技術習得に励んでいます。



ニンニクの病害虫サンプリング、生育調査法を実際の作業をしながら学ぶ研修メンバー

営農大学校生病害虫防除演習

研究所では営農大学校の植物病理・作物昆虫学の授業を受けもっています。7月4日は、学生の皆さんに研究所に来てもらい、顕微鏡を使った菌類の分類、同定の演習を行いました。



東北地域野菜夏期研究会



ナガイモ簡易網室の説明を聴く参加者



研究会は東北6県の野菜研究者が集まり、現地検討会、各県の状況、研究成果の検討や情報交換をする場となっています。今回は、野菜研が担当となりました。

十和田市と野菜研究所を会場に、7月26・27日に今年度の東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会野菜研究会（夏期）が開催されました。テーマは「地域特産野菜の品種開発と種苗供給」とし、現状とその技術的課題や今後の技術について検討しました。

現地検討会はナガイモの優良種苗生産について紹介し、研究会では、細田品種開発部長が品種開発と種苗供給について説明があり、住化テクノサービス株式会社の高市所長からは「白玉王」の育種について講演をいただきました。

特産野菜の産地を支える上で、品種開発と種苗供給面が手間がかかるものの、重要なことであることを伝えることができました。

土づくり指導力向上研修会

7月14日、当研究所において、県関係機関、市町村、JA全農あおもり、各農協から計19名の参加を得て、土づくり指導力向上研修会が開催されました。主な内容はRQフレックスを使用した土壌中の硝酸態窒素の分析方法で、当研究所からは今主任研究員が測定サンプルの調整や測定方法について解説しました。

